インフィニティ今津

作　斜田　章大

登場人物

一号

二号

三号

店員

舞台

小さなカフェ

舞台には女（一号）が一人。そこにだけ光は集まっている。
地味な女だ。面倒そうな女にも見える。眼鏡をかけ、長く手入れの大変そうな黒髪をしている　。年は二十代後半から三十代に見える。

一号　……

椅子に座っている彼女の前には、机が一脚、その上にはアイスコーヒー。近くには、おしぼりとコップに注がれた水。
女は、あなたが少し心配になるくらいの間、アイスコーヒーをじっと眺めている、が、やがて意を決したように、一口飲む。と、

一号　ガツン！！　と、苦みが脳みそを駆け巡って、一瞬後（のち）に、あぁこんな味だったなと思い、その後（あと）、かつてこのコーヒーを一緒に飲んだ男の顔と、彼の人間というよりは爬虫類に似た、その妙に冷たい肌の感覚を思い出した。カフェインが体を通（かよ）って、薄らぼんやりとした体を目覚めさせていく。最近／なんだか／時間の感覚が／おかしい。ついこの間のことが遠い昔のことに感じられ、その逆もまたしかりで、と、そういえばこの言葉も理屈っぽいあの人の口癖であったなと思う。彼と／一緒に／このコーヒーを／私は／飲んだ。それは確か……あぁ、なんだかとんだ奇遇だ、丁度四年前、

二号　こんにちは

二号の声で一号が意識をとり戻す、それと同時に明かりが付いていき、ようやくあなたはこの舞台の全貌を目にする。どうやらここはカフェらしい。一号が座っているテーブル以外にも、いくつかテーブルは舞台に存在しているが、他に客はいない。
舞台上手には扉があり、少しだけ店の外のスペースも、舞台上から見えている。下手はキッチンへと続いている、
二号は一号に比べて多少派手な身なりをしている。年は同じく二十代後半から三十代に見える。

二号　こんにちは一号さん

一号　……お久しぶりです。二号さん

二号、一号の対面の椅子に腰かける。

二号　いつ以来ですっけ（テーブルの上に置かれたメニューを眺めて）
一号　二年です
二号　二年、
一号　……
二号　そうかもう二年だ
一号　……
二号　なんか、あっという間ですよね、そう思いません？

下手のキッチンから、店員がやって来て、二号の前におしぼりと水を置く。

店員　ご注文は
二号　（一号に）それアイスコーヒー？
一号　はい
二号　（定員に）同じの
店員　かしこまりました。

店員がはける。

二号　三号さんは？
一号　えと、まだ、です。多分
二号　多分？
一号　私、顔知らないんで
二号　へぇ……
一号　どんな人ですか？
二号　どんな……どんなだろ、私も一回しか会ったことないんで
一号　そうですか

そんな会話の中、上手舞台袖からロングコートの女性（三号が現れる。）
彼女は店の前、扉の近くまで行くが、店の中には入らずそこで立ち止まると、腕時計をじっと、眺め始める。三号がそんな怪しげな動きをしている間にも、それを知らない一号、二号は会話を続けている。「

二号　なんか、なんだろ……ちょっとオタク？　っぽいっていうか、私そういうのあんまり分からないですけど
一号　はぁ

二号　あ、全然似ていない感じですよ、私とも、一号さんとも
一号　……変な時間ですよね
二号　え？　あぁ……待ち合わせが４時５５分って……なんか事情あるんですかね
一号　ですね
二号　なんなんでしょうねぇ。お話って
一号　ですね
店員　お待たせしました

店員が現れる。

店員　アイスコーヒーです。（コーヒーを置いて）……ごゆっくりどうぞ

店員がはける。その間二号はアイスコーヒーを口にして

二号　うわ、苦！
一号　……
二号　笑っちゃうくらい苦いですね
一号　そうですね
二号　笑っていいですか？
一号　……どうぞ
二号　アッハッハッハッハッ（あっけらかん）
一号　……
二号　え、笑えるくらい苦くないですか？
一号　……
二号　あ、
一号　（反応だけで）？
二号　思い出した。好きでしたよねアイスコーヒー
一号　……あぁ、はい。……アイスコーヒーばかり飲んでましたねあの人
二号　え、あの人って呼んでるんですか？　……今津君のこと
一号　……
二号　へー、笑っていいですか？
一号　……
二号　笑っちゃいますね。アッハッハッハッハッ（あっけらかん）
一号　……
二号　スマイル、スマイル！
一号　……ご結婚されたんですね
二号　え、（自分の左手の指輪を見て）あ、はい。先々月

一号　おめでとうございます
二号　一号さんは？
一号　私は生憎
二号　生憎って面白いですね
一号　面白いですか？
二号　古典の先生みたい
一号　日本史
二号　え
一号　私日本史の先生です
二号　え、一号さんって先生なんですか
一号　はい
二号　へぇー面白、え、笑っていいですか
一号　どうぞ
二号　あっはっはっはっ（あっけらかん）
一号　……
二号　あぁそうだ、数学の先生でしたね、今津君
一号　そうですね
二号　私勉強からきしで、今津君の言っていること全然分かんなかったなぁ
一号　そうですか
二号　だから一年しか保（も）たなかったんだろうなぁ
一号　……
二号　一号さんどれだけでしたっけ
一号　……
二号　……
一号　二年です
二号　へぇ
一号　はい
二号　どんなでした？
一号　……

一号、コーヒーに口をつける。と、また光は一号に集まる。

一号　どうだったろう。どうだったのだろうか私達の生活は。思い出すのは匂い。結婚の前、まだ学生だった頃、あの人からは、いつもタバコの匂いがした。そして、そう、あれがあった日から彼は煙草をやめて、代わりにコーヒーばかり飲むよう

になって、服にもコーヒーの匂いが染みついていった。「依存をするものを変えたって仕様がないじゃない」と私は言ったと思う。あの人は惚(とぼ)けた顔で「おぉ」と言っていたが、彼も私も当然気づいている。彼が、本当に依存をしていたものは、勿論、タバコなんかじゃなくて、だから私は、

三号　あ、

三号の声で一号が意識をとり戻し、明かりがもとに戻ったとあなたは気づく。扉の前に新しい女（三号）が立っている。扉はまだ半開きで、今、来て、二人に気づいたのだろう。

三号は三人の中では一番若く見えるが、一番地味な格好をしている。表情を隠すように前髪が長い。どこか自信が無く、おっかなびっくりといった様子である。

二号　三号さん

三号　……三号？

二号　（自分を指して）二号。（一号を指して）一号

三号　（理解して）あぁ

一号の対面、二号の隣の席に座る三号。二人になんとなく頭を下げる。

三号　今日はお忙しいところ、急にお呼びしてしまってすみませんでした

二号　いえいえ

三号　（一号に）その……はじめまして。あなたが

一号　はい。……あなたが

三号　はい。……今津知也(いまづともや)の……三番目の妻です。（お辞儀）

一号　今津知也の一番目の妻です。（お辞儀）

二号　改めて今津知也の二番目の妻です。

なんかこう……凄い間。

一号　（急に正面を向いて）今津知也と三人の元妻

二号　改め

三人　（キリっ……！　とした顔で）インフィニティ今津！

店員　ご注文は

店員が現れ、三号の前に水とおしぼりを置く。

三号　（二人へ）アイスコーヒー？
一号と二号　（首肯）
三号　その……同じものを
店員　かしこまりました

店員がはける。
三号着ていたロングコートを脱ぐ。

二号　三号さん少し痩せた？
三号　……そうですか？
二号　うん、痩せたと思うけどなぁ、食べて？
三号　食べてるつもりですけど
二号　今津くんは元気してるの？
三号　……元気そうですよ
一号　……そう？

間。

一号　あ……なんだかごめんなさい。妙に他人行儀な言い方だなって
三号　……思われているとおりですよ
二号　え
三号　……今津さんは、もう私のところにはいないんです。
二号　え！？
三号　別の人のところにいます
二号　別の人って
店員　お待たせしました

店員が現れる。

店員　アイスコーヒーです。（コーヒーを置いて）……ごゆっくりどうぞ

店員がはける。その間三号はアイスコーヒーを口にして

三号　苦いですね。懐かしい。私ここで今津さんと別れたんです。半年前。結婚生活も

半年でした。
二号　離婚されてたんですね
三号　はい
二号　それはそれは
三号　いえ

三人、なんとなくぺこぺこしている。

二号　それで……三号さん、別の人って
三号　はい
二号　つまり……四号ってこと？
三号　十一号
一号と二号　十一……！？
三号　昨日の時点で、今津さんは十一号と結婚していました。
一号と二号　……（驚愕）
三号　そして今この瞬間も今津さんの結婚スピードは指数関数的に上がり続けています
二号　え、笑い話？
三号　（急に）笑い話ではありません！！
二号　え、あ、すみません
三号　（我に返って）ごめんなさい……その、今日お二人をお呼びした理由はこれです。
このままでは、私たちは、いや、世界は、明日を迎えられないかもしれません
二号　はぁ？
三号　順を追って説明します。……一号さん、今津さんとは何年結婚してました？
一号　え、二年、ですけど
三号　今津さんは一号さんと二年で離婚してそのまま二号さんと入籍しました。二号さん、あなたは何年結婚してました？
二号　一年だけど
三号　今津さんは二号さんと一年で離婚してそのまま三号、つまりわたしと結婚しました。そして半年で離婚しました。何かお気づきになりませんか？
一号　結婚期間が半分になっていっている
三号　ご明察。逆にいえば、今津さんが結婚するスピードが倍々になっているとも言えます。
二号　それが何だっていうのよ
三号　違和感を覚えたのは五号の時です。私、別れた後もこっそり今津さんの生活を見張っていたんですけど
二号　え、こわ
三号　怖く無いですよ。ちょっと後つけたり

二号　こわ

三号　怖くないですよカメラは仕掛けてないんで。カメラは仕掛けてないんで怖くないです

二号　笑っていいですか？

三号　そう笑ったんです

二号　は？

三号　四号との結婚生活が三ヶ月しかもたなかった時、私は笑いました。私の半分、ザマァ見ろって。四号との結婚生活が終わって今津さんは五号と結婚しました。これは一月半しか持ちませんでした。四号の半分。六号の結婚生活は五号の半分……七号の結婚生活は六号の半分……つまりｎ番目の妻との結婚生活が続く期間 y は以下の式で表されます。

「$y = 2 \times (1/2)^{n-1}$」。

これを分かりやすく変形するとこうなります。

「$y = 2^{(2-n)}$」

一号　$y = 2^{(2-n)}$……！

三号　y は year のyです。ま、年単位で結婚しているのお二人だけですけど（壺に入って自分だけ笑う）

二号　え、ちょっと待って私全然分かんない

三号　（急に迫真で）ｎに具体的な数値を代入してみてください！

二号　代……入……？

三号　n=1。つまり一号さんの時には2^1で2年。n =2 を代入すると、2^0で1年。n =3 を代入すると「$2^{-1} = \frac{1}{2}$」つまり半年……

二号　いや全然分からないけど

三号　Σ（シグマ）に入れてみましょう

二号　シグ……マ？

三号　この数列はシンプルに初項 a(1)を 2、公比 1/2 の等比数列。その場合、a(1)から a(n)までの和は……

二号　ごめん全然分からん

三号　高校数学ですよ

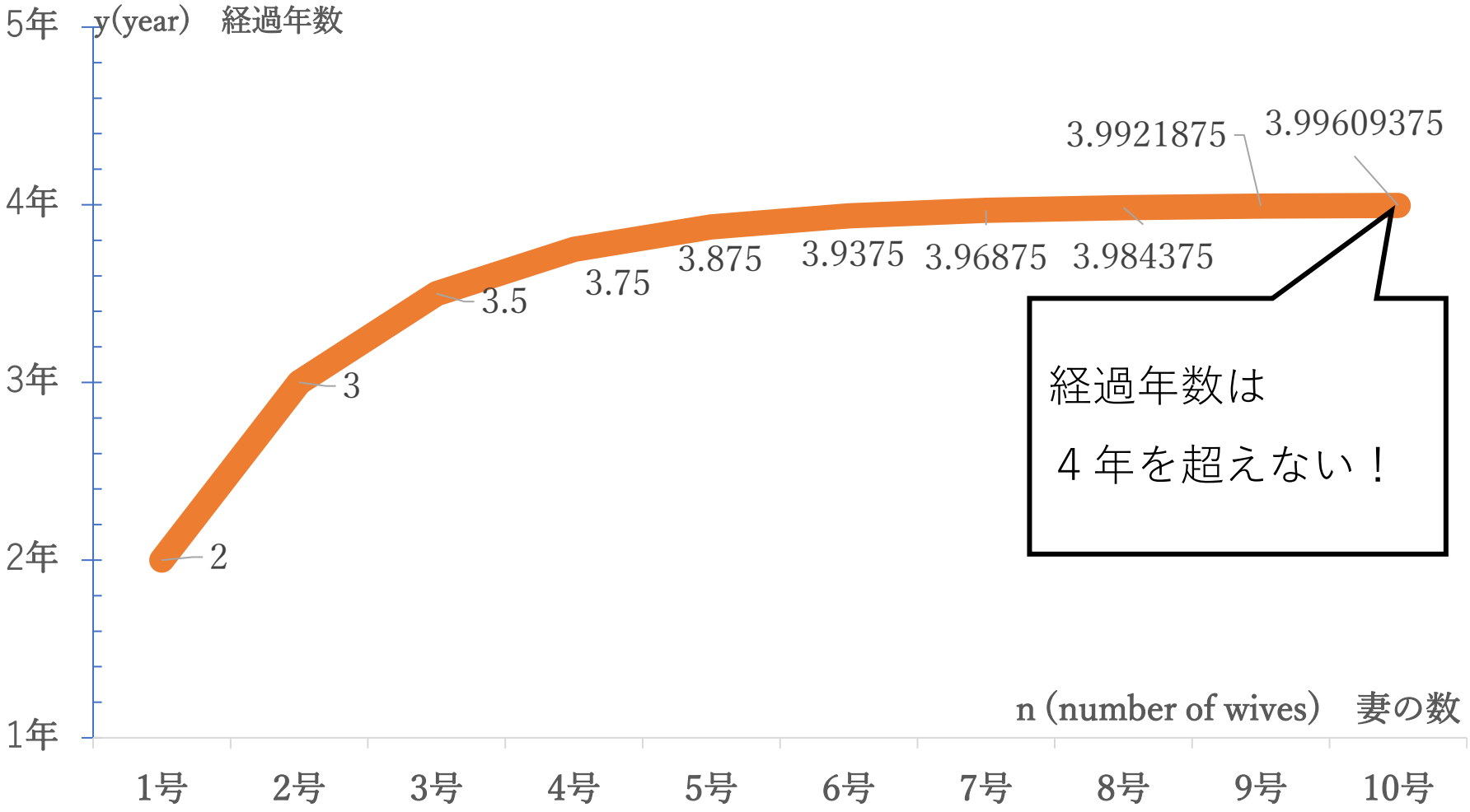
二号　誰もが高校数学を分かると思うなよ

一号　（はっ！と気づく）まさか……！　$\sum_{k=1}^{n}(2^{2-n}) = 4 - 2^{(2-n)}$……！

二号　一号さん！？

一号　これって……！

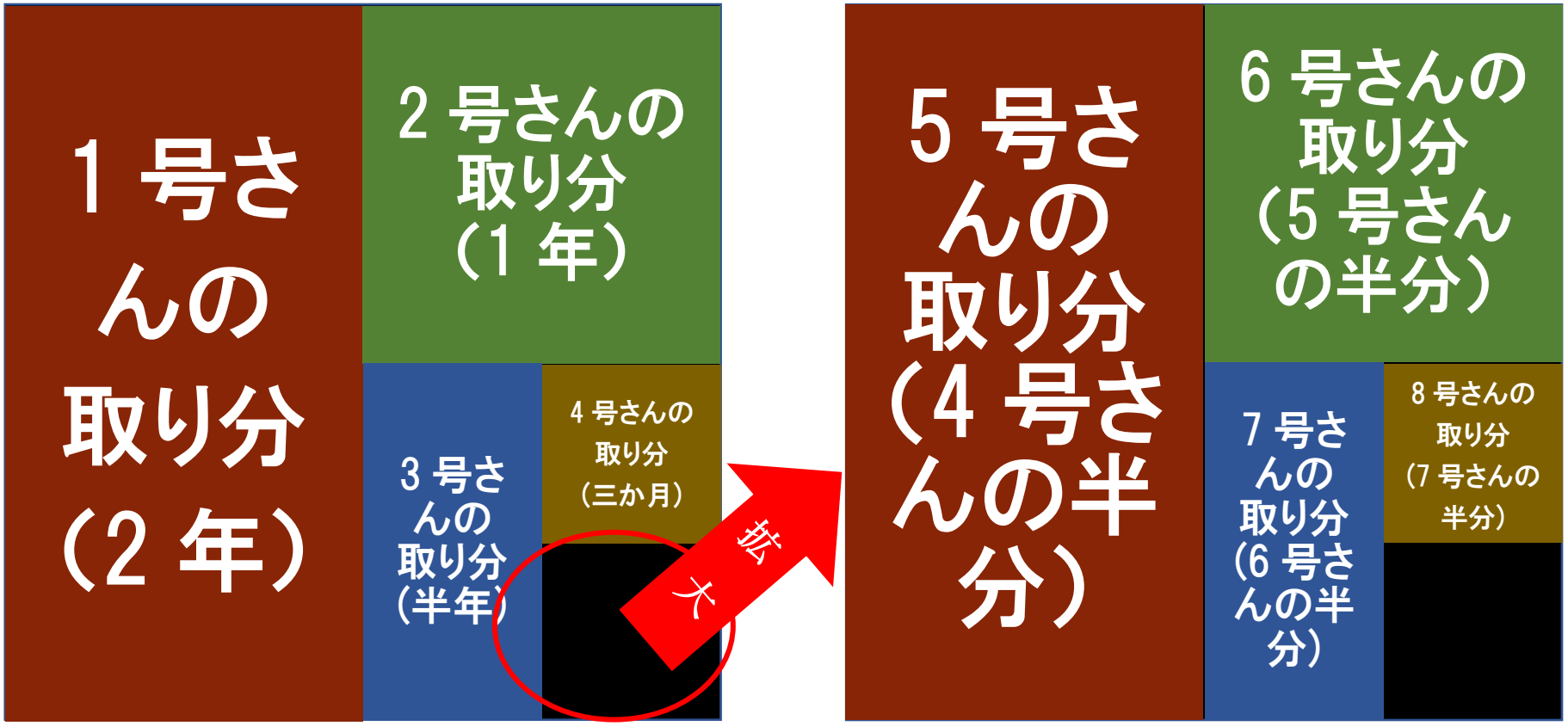
三号　はい。これは無限等比級数。4に無限に収束していき、決して4には辿りつきません。具体的にグラフを書くと、こんな感じです。


5年
4年
3年
2年
1年
y(year)　経過年数
2
3
3.5
3.75
3.875
3.9375
3.96875
3.984375
3.9921875
3.99609375
経過年数は
４年を超えない！
n (number of wives)　妻の数
1号
2号
3号
4号
5号
6号
7号
8号
9号
10号

三号　そして今日が、1号さんあなたが今津さんと結婚して丁度、4年
一号　……つまり私達は明日にたどり着けない
三号　……はい

間

二号　全然分からへん
三号　全然分からへんですか
二号　全然分からへん
三号　では説明を変えましょう。いまここに1辺が2の正方形があるとします
二号　は？
三号　あるとするんです
二号　あ、はい
三号　その面積は？
二号　え、2って何？2㎝？　2m？
三号　単位は何でもいいですよ
二号　なんでも……いい！？
三号　㎝です。㎝としましょう
二号　え？　2×2で4㎠でしょ
三号　ご明察。これが今問題となっている4年です
二号　は？
三号　そのうちの半分を一号さんがとっていきました。残りの面積は
二号　え、2㎠でしょ？
三号　ご明察……残った2のうちの半分を二号さんあなたがとりました。残りの面積は？
二号　1㎠
三号　この残りのさらに半分を私、三号がとりました。残りの面積は1/2。更に半分を4号がとりました。残りの面積は1/4
二号　訳わからなくなってきた
三号　分かりやすく図にするこうです。


1 号さんの取り分（2 年）
2 号さんの取り分（1 年）
3 号さんの取り分（半年）
4 号さんの取り分（三か月）
死亡
5 号さんの取り分（4 号さんの半分）
6 号さんの取り分（5 号さんの半分）
7 号さんの取り分（6 号さんの半分）
8 号さんの取り分（7 号さんの半分）

三号　この処理を無限に繰り返しても、結婚していた期間の和は、元の正方形の面積４を超える事はありません。……Q.E.D.……証明終了

一号　……

二号　……

間

二号　……いーーーや、分からへん

三号　分からへんですか

二号　いや良く分からんけど、仮に今津君の結婚するスピードが倍々になっているとしてさ

三号　はい

二号　それはそれとして時間が経てば明日は来るじゃん

三号　いい考察です

二号　いい考察って

三号　一号さん、あなたが結婚したのは四年前の今日。時刻は夕方の５時丁度だったんじゃないですか？

一号　……なぜ？

三号　私がプロポーズされたのも一年前のこの日の夜の５時でした。二号さん、あなたがプロポーズされたのは二年前の夜の５時だったんじゃないですか？

二号　そんな時間だったかも

三号　やはり……なので極限点……つまり我々が超えられないであろう時間点は本日の夜の５時！

二号　５時って……（腕時計を見て）あと２分しかないじゃん

三号　おかしいと思いませんか？

二号　は？

三号　私達、今日、４時５５分に待ち合わせをしましたよね

二号　え、あ、うん

三号　私は丁度来るように調整しました。あれから３分しか経っていないように思いますか？

間。

二号　え、確かに。もっと経った気がするけど……

三号　今津さんの結婚スピード上昇と共に、時間がゆっくりになってるとしたら……？

一号　時間が……？（はっ！　と気づいて）三号さんまさか！？

三号　そう……相対性理論です

二号　相対性理論……！

三号　今津さんの結婚スピードは今この瞬間も指数関数的に上がり続いている。そして光速……つまり秒速30万キロメートル……いえ、秒速30万結婚に近づくほど、時間の流れはゆっくりとなっていくとしたら。いずれ今津さんの結婚スピードは光速に到達する……その時、

二号　その時……

三号　時間が……止まり世界が滅びます。

間

三号　今日お二人をお呼びしたのはこの事を伝えたかったんです。一緒に今津さんの結婚を止めましょう……！世界を、救う、ために

一号　……

ごくりとコーヒーを一口飲む、と、再び光は一号に集まる。

一号　勿論三号さんの言っている相対性理論は、めっっっちゃくちゃで、そもそもあの理論は名前のとおり相対的なものであり、光速に到達して時間が止まるのはあくまで光速に到達したものからみた世界の話なのだが、とりあえずそういう事は無視しようと思う。何故なら世界中の人間があの人と結婚して、旧姓今津となっていく様を想像する事は楽しいから。あの人はいつも惚(とぼ)けた顔で、どこか眠そうにしていて、何度言っても脱いだ靴下を洗濯機に入れてくれなくて、使った調味料の蓋をするのも良く忘れて、でも大好きな数学と演劇の話をする時だけはなんだか生気に満ち溢れていて、ギラギラと光る目はなんだかやっぱり人間というよりは爬虫類っぽくて、童顔なわりに低い声もどこかチグハグとしていて、あぁそうだ。そういえばそんな声だった、と、今、私は思い出している。そして、その声で誰の名前をよく呟いていたのかも。だから、
私は言う。

アイスコーヒーを置く一号。
明かりが元に戻ると同時に彼女は口を開いている。

一号　残念ながら私達には止められないと思うよ

三号　……どうしてそう思われるのですか？

一号　あの人は私の言うことを聞く人では無かったから。あの人が言う事を聞くとした

らそれは
三号　それは
一号　0号さんだけでしょうね
二号　0号さん？
一号　あの人、私の前に付き合っている人いたんです。大学生活の四年間、その人と付き合っていました
二号　一号さんって、もともと今津くんって同じ大学の後輩なんでしたっけ
一号　そう。あの人はサークルの、学生劇団の先輩で、同じ劇団の方と交際をしてました
三号　その0号さんなら、今津さんを止められますか？
一号　0号さんはもういません
三号　……
一号　亡くなられています。だから、あの人は、今津さんは、0号さんを求めて、際限なく結婚をしているんじゃないかな

間。二号突然アイスコーヒーを勢いよく飲み干す。

二号　ぷはーっ！！　……全然分からへん
一号　全然分からへんですか？
二号　正直相対性理論のあたりから脳みそが聞くことを拒否ってた。ここで新キャラ出た事でわたしの脳みそは今完全にノックアウトされましたという次第です
一号　次第ですか
二号　ちょっと風に当たって頭冷やしてくるわ

二号がはける。舞台になんとなく、一号と三号のみ残る。

三号　私、今津さんとの結婚生活ずっと違和感あって
一号　……はい
三号　それ、二号さんか、一号さんか、前の奥さんのどちらかが忘れられないのかなぁって……でも、そうか、0号さんか……そうか

舞台には気がつくと夕陽が差している。

三号　（夕陽をなんとなく眺めて）綺麗ですね、
一号　え、（気づいて、自分も夕陽を見て）そう、ですね

三号　一年前、今津さんとこのお店来たんです。この時期のこのお店から見える夕陽が

とても綺麗だよって。その後プロポーズをされました
一号　……そうですか
三号　気を使わなくていいですよ
一号　え
三号　きっと同じプロポーズですよね
一号　……
三号　だってほら、私達結婚記念日一緒で、プロポーズの場所も同じですから
一号　……はい
三号　きっと二号さんもそう。酷い人だなぁ。私ほんとだったら今日初めての結婚記念日だったのに
一号　……
三号　でもね、どれだけ今津さんの妻が増えようと、この思い出だけはきっと私たち三人だけのものだって思うんです。ほら他の人たちは、結婚記念日ずれちゃいますから
一号　……そうですね
三号　一号さん、アキレスと亀の例え話ってわかりますか？
一号　分かりますよ
三号　永遠に亀に辿り着かないアキレスが、でも万一、亀にたどり着いちゃったら……アキレスは一体どうなってしまうのでしょうか？
一号　それはつまり……
三号　はい
一号　……あの人はそれが知りたくて亀を追っているんじゃないでしょうか
三号　……なるほど

三号、おもむろにアイスコーヒーを手にすると一息に飲み干す。

三号　ぷはー！！……納得いかねー！！
一号　納得いきませんか
三号　納得いきません……一号さんや二号さんならまだしも……いやまだ見ぬ１００号さんや、一恒河沙号（いちごうがしゃ）さんでもいいです。その人が好きならいいんです。でも……亡くなった０号さんのことをずっと思ってるなんて、納得いかないですよ
一号　……
三号　私やっぱり今津さんに会ってきます
一号　え
三号　納得いかないから、止めてきます

三号がはける。軒先でタバコを吸っていた二号、その気迫になんとなくビビる。
……と、思ったら、三号はすぐに戻ってくる。軒先でタバコを吸っていた二号、もう一度、三号の気迫にビビる。

三号　すみません、お金、これ！（500円玉を置いて）
一号　……（ぽかんとする）
三号　私、0号さんなんかに負けません！　では

三号、今度こそはける。

一号　……

一号、なんとなく三号と見た夕陽を眺めてる。と、二号が戻ってる。

二号　三号さん、なんかすごい勢いで……
一号　出てっちゃいました。あの人を止めるって
二号　はーーー
一号　はい
二号　凄いキャラですね
一号　笑えますか？
二号　笑えないです
一号　ですか
二号　今津君のことそんな好きか
一号　ですね
二号　それであんな変になっちゃって
一号　え？
二号　え？
一号　え？
二号　え？　おかしいこと言ってましたよね。時間が止まるとか
一号　……そうですね、はい
二号　私も帰ろうかな。旦那に飯作らないといけないし
一号　そうですか
二号　一号さんどうします？
一号　私は……私はもう少しいようかな
二号　そうですか。

なんとなく、間。

二号　０号さんってどんな人でした？
一号　天使みたいな人でした
二号　へー
一号　優しくて正しくて皆、０号さんの事が好きでした
二号　一号さんも
一号　はい、私も
二号　（急に）自殺ですか？
一号　……自殺です
二号　あーー、そぉかぁ、そっかぁぁーー
一号　……
二号　私、自殺する人のことさっぱり分かんないけど、自殺する人も私のことさっぱり分かんないからあいこだなって思います
一号　……
二号　新しい人ができたら、もうどうでもよくなっちゃいますけどね、私なんかは。一号さんもあんな奴のことなんかとっとと忘れて新しい男作りましょ。なんなら私、紹介するんで
一号　……
二号　じゃ、お先に（５００円玉をテーブルに置く）

二号がはける。一号は再び一人。ぼぉっと外を見ている。そこに店員が現れる。
彼女の前にアイスコーヒーを、置く。

一号　え
店員　おかわり、よければ
一号　あ、なんだかすみません。いただきます
店員　お話できて光栄です、一号さん
一号　え
店員　二十八号です

一号、コーヒーを思わず吹き出しそうになるが、ギリギリで耐えた。

一号　二十八号さん
店員　二十八号です
一号　そうか……そう言うこともあるか（頭を抱える）……え、どれだけですか結婚生活

店員　およそ0.5秒です
一号　そうか……そういうこともあるか
店員　私の結婚生活が0.5秒だったと言う事は、極限点まで残り0.5秒を切った事を意味します。しかしこの0.5秒が終わる事はありません。何故なら今この瞬間も今津さんは指数関数的に結婚のスピードを上げ続けてるいるから。この0.5秒は無限に二分割を続け極限点である四年目に到達する事はありません
一号　アキレスが亀に辿り着かないように
店員　あるいはゼノンの弓が的に辿り着かないように
一号　……
店員　私が彼と過ごしたのはたった0.5秒ですが、でもね、それは一号さん。あなたの二年くらいに、私にとっては濃いものでしたよ
一号　……
店員　ごゆっくりどうぞ

店員がはける。
一号はしばし出されたアイスコーヒーをじっと見てるが、やがて意を決したようにそれを、飲む。

一号　ガツン！！　とした、苦みが脳みそを駆け巡って、一瞬後(のち)に、あぁこんな味だったなと思い、その後(あと)、かつてこのコーヒーを一緒に飲んだ男の顔と、彼の人間というよりは爬虫類に似た、その妙に冷たい肌の感覚を思い出した。私はあの人のことをどう思っているのだろうか。と、私は今、考えている。三号さんは多分まだあの人のことが好きで、二号さんはあの人のことをもうどうでもよく思っていて、二号さんと三号さんの作る線分のおおよそ中点のところにきっと私はいる。残念ながら0号さんは、同じ平面上にはいない。実数と虚数くらいの距離がある可能性もあるが定かではない。
……さて、実のところ、私はあの人の本当の目的が分かっている。勿論、他人の気持ちは隠された数値だけれど、見当はついている。指数感的に速くなるあの人の結婚スピードはやがて光速に追いつき世界が止まる。それが三号さんの仮説。でもその先がある。あの人は光速に追いついても、止まった時間の中でも更に結婚スピードを上げるかもしれない。勿論、光速を超えられないというのはこの宇宙を貫く絶対の法則なのだけれど、もしも、超えることがあれば、時間はゼロを超えてマイナスに到達し、世界は過去へ巻き戻る。
それが狙いなのだろうと私は思っている。世界中を滅茶苦茶にしてあの人は、0号さんにまた会いたいのだ。

……でもね？
そんな滅茶苦茶な事をするのなら、私にだって考えがある。あの人が巻き戻って0号さんに会うつもりなら、その前に必ず、私、つまり一号を通過しなければならない。私はまたあの人に相(あい)まみえることになる。
その時／私は／あの人に／そんな滅茶苦茶な事をしているあの人に／一体／何を言うべきなのだろう？
……いやこれは違うな。
あの人に／何を／言ってやろうか？
私は今、それを考えている。

一号　……

一号はコーヒーを飲み干し、コップを置く。
それをじっと見つめ時を待っている。

一号　……

一号はじっと待っている

一号　……

一号はじっと待っている。

一号　……

無限の時間が経過する。
やがて、カフェの扉が音を立てて開く。
一号は、あなたからは扉の影に隠れて見えないその人影を、目を細めて眺めると、軽く片手を上げる。
そして、言う。

一号　……おう

インフィニティ今津　Fin